

補助音声・動画を活用した 楽典（音楽基礎）オンライン授業

深見友紀子（大東文化大学文学部）

Online Classes about Music Basic Knowledge Using Auxiliary Audio and Video

Yukiko FUKAMI

概要

教育学科の初年次科目『音楽概論』において、学習管理システム（Learning Management System）manabaの小テストの作成（2019年度）に引き続いて、授業補足音声・動画を制作した（2020年度）。年度が替わり、2021年度前期に開講された同科目で同時双方向 Zoom 授業での教師による説明、小テスト、授業補足音声・動画を組み合わせたオンライン授業を行った。授業期間終了後、履修者にアンケート調査を実施したところ、小テストや音声・動画は、理解の定着に有益であることがわかった。また、今後の授業についても対面で実施する必要性を感じないという意見が多数を占めた。

本稿では、授業補足音声・動画、オンライン授業の内容を報告するとともに、アンケート調査の結果などから、オンライン授業の利点や今後の課題についてまとめる。

1. はじめに～これまでの経緯

1.1 小テストの作成

教育学科入学生の音楽知識の定着を図ることを目標に、2019年5月～7月、筆者が担当する教育学科の初年次科目『音楽概論』において、manaba上に楽典学習のための小テストを作成した（図1）。小テストの構成は、「音名」（Step1～10）、「音階と調」（Step1～10）、「さまざまな記号」（Step1～4）、「音程」（Step1～10）、「コード」（Step1～8）であった。「さまざまな記号」以外は段階的に（難易度易→難）問題を作成し、難易度易の基本問題に関しては、満点を取らなければ次の段階に進めないように設定した。「コード」については分量が少なかったため、翌2020年にStep6～8を追加作成した。

No.▲	タイトルID	前提条件	期間	公開/非公開	提出	管理
1	ドリル 音名-step 1-	-	受付中 2019-05-31 22:20~	公開中	45名	
2	ドリル 音名-step 2-	-	受付中 2019-05-31 22:20~	公開中	44名	
3	ドリル 音名-step 3-	-	受付中 2019-05-31 22:20~	公開中	44名	
4	ドリル 音名-step 4-	-	受付中 2019-05-31 22:20~	公開中	44名	
5	ドリル 音名-step 5-	-	受付中 2019-05-31 22:20~	公開中	44名	
6	ドリル 音名-step 6-	-	受付中 2019-05-31 22:20~	公開中	44名	
7	ドリル 音名-step 7-	-	受付中 2019-05-31 22:20~	公開中	44名	
8	ドリル 音名-step 8-	-	受付中 2019-05-31 22:20~	公開中	44名	
9	ドリル 音名-step 9-	-	受付中 2019-05-31 22:20~	公開中	44名	
10	ドリル 音名-step 10-	-	受付中 2019-05-31 22:20~	公開中	44名	
11	ドリル 音階と調 -Step1-	-	受付中 2019-06-11 13:10~	公開中	43名	
12	ドリル 音階と調 -Step2-	-	受付中 2019-06-11 13:10~	公開中	43名	
13	ドリル 音階と調 -Step3-	-	受付中 2019-06-11 13:10~	公開中	43名	
14	ドリル 音階と調 -Step4-	-	受付中 2019-06-11 13:10~	公開中	43名	
15	ドリル 音階と調 -Step5-	-	受付中 2019-06-11 13:10~	公開中	42名	
16	ドリル 音階と調 -Step6-	-	受付中 2019-06-11 13:10~	公開中	42名	
17	ドリル 音階と調 -Step7-	-	受付中 2019-06-11 13:10~	公開中	42名	
18	ドリル 音階と調 -Step8-	-	受付中 2019-06-11 13:10~	公開中	42名	
19	ドリル 音階と調 -Step9-	-	受付中 2019-06-11 13:10~	公開中	42名	
20	ドリル 音階と調 -Step10-	-	受付中 2019-06-11 13:10~	公開中	42名	
21	ドリル さまざまな記号 -Step1-	-	受付中 2019-06-13 01:45~	公開中	43名	

図1 小テストの画面(一部)

1.2 授業での小テストの活用(2019年度)

2019年度前期の授業では、作成と同時進行で、履修者40名が授業後に小テストに取り組み、知識の獲得状況を自身で確認するという取り組みを行った。その結果、小テストがまだなかった2018年度前期と比べ、学期末試験の平均点が8.56点高くなった。(67.24点(2018)、75.80点(2019)100点満点、同一問題)。履修者の多くは教育学科の1年生であり、その属性に大きな違いはないことから、[授業での教師による説明(ピアノ演奏を交える)のみ](2018年度)と比べ、[授業での教師による説明(ピアノ演奏を交える)+小テスト](2019年度)のほうが履修者の理解度が高まることがわかった。

また、神戸女子大学(小林田鶴子教授)においても、2クラス(約80名)でこの小テストを活用した後、A、Bクラス(小テスト未実施)、C、Dクラス(小テスト実施)に小林氏が作成した同一内容の学期末試験を実施したところ、それぞれの平均点が79.6点、76.6点、87.2点、84.9点となった。授業への参加に加え、小テストに取り組んだC、Dクラスの点数が高くなり、同様に小テストの効果が認められた。

2. 2020 年度の授業

2020 年度前期の『音楽概論』の授業は、コロナ禍によって全面的にオンライン授業になった。2 年続けて紙で実施した学期末試験は、manaba の小テスト形式で作成し直し、オンライン試験として実施したが、教室で実施するペーパー試験（2018 年度、2019 年度）と、自宅などで受けるオンライン試験（2020 年度）を比較検討することは、試験内容がほぼ同一であったとしても正確にはできないため、小テストの教育効果を継続的に分析することは断念せざるを得なかった。さらに、対面授業時に教室内で筆者がピアノを弾きながら行ってきた説明をオンラインで行おうとすると、ピアノ音のタイムラグや音質の劣化が生じるという問題が生じた。

そこで、双方向オンライン授業では説明のみ（+画面共有）にして、ピアノ演奏などを交えた説明は、自撮りして YouTube の限定公開で視聴させることにした。つまり、2020 年度のオンライン授業は〔双方向オンライン授業での教師による説明+小テスト+教師による自撮りピアノ演奏及び説明動画配信〕となった。

3. 授業補助音声・動画

3.1 概要

2020 年度前期の授業終了後、上記の自撮り動画と、使用テキスト『この一冊でわかる ピアノ実技と楽典 増補版 保育士、幼稚園・小学校教諭を目指す人のために』（2012、深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 音楽之友社）の内容を精査し、必要と思われるコンテンツの録音・録画の計画を立てた。撮影は、2020 年 11 月に筆者の自宅スタジオで行った（図 2）。その後、映像編集作業およびウェブ化を行い、2021 年 2 月に授業補助音声・動画は完成した。



図 2 撮影の準備

その内容は以下のとおりである。

表 1 授業補助音声・動画の項目

項目	音声	時間	動画	時間	楽譜	鍵盤図	ページ
楽譜と鍵盤の位置	○	1' 06"	—	—	○	○	51
音部記号と譜表	○	0' 32"	—	—	○	—	51
音名	○	0' 55"	—	—	○	○	52
高さの違う音名の表記	○	0' 44"	○	1' 30"	○	○	53
音の幅	○	0' 23"	—	—	—	○	54
変化記号	○	1' 06"	—	—	—	○	54

音符の長さ	○	0' 54"	-	-	○	-	56
リズムと拍子	-	-	○	6' 55"	○	-	57
4/4拍子と2/2拍子の違い	-	-	○	1' 02"	-	-	57
音符の組み合わせは言葉で覚えよう	○	0' 44"	-	-	○	-	58
音階	○	0' 51"	-	-	-	-	59
長音階と短音階	-	-	○	2' 06"	○	-	59
ト長調とホ短調	-	-	○	1' 18"	○	-	64
長調、短調の音階と調号	-	-	○	3' 24"	○	-	65
さまざまな記号	-	-	○	5' 26"	-	-	68~69
音程の種類と鍵盤数	○	1' 26"	-	-	○	○	73
長短系の音程(2度・3度の場合)	○	1' 05"	-	-	-	○	75
長短系の音程(6度・7度の場合)	○	0' 58"	-	-	-	○	76
4度・5度の音程	-	-	○	1' 36"	○	-	78~79
#とbが付く音程(長短系の音程)	-	-	○	1' 57"	○	○	83
#とbが付く音程(完全系の音程)	-	-	○	1' 09"	○	○	84
コードの種類	-	-	○	2' 38"	○	-	88
コードの転回形	-	-	○	2' 38"	○	-	93
セブンス・コード	-	-	○	1' 40"	○	○	95
その他のいろいろなコード	-	-	○	2' 30"	○	○	96~97
伴奏の実際	-	-	○	4' 33"	○	-	101

ページは、『この一冊でわかる ピアノ実技と楽典 増補版 保育士・幼稚園・小学校教諭を目指す人のために』の該当ページを示す。

3.2 内容

ここでは授業補助音声・動画の内容を抜粋して解説する。詳細は以下の URL を参照。

http://www.ongakukyouiku.com/online_contents/index.html



図3 授業補助音声・動画のページ QRコード

「高さの違う音名の表記」に関しては、文字と楽譜、鍵盤図、動画を使って解説した(図4)。

「リズムと拍子」に関しては、4分の2拍子「かたつむり」、4分の3拍子「うみ」、4分の4拍子「春が来た」、8分の6拍子「思い出のアルバム」を使用して解説し、リズム打ち課題は、その正解を動画で示した(練習問題レベル1~5、図5)。

「長調、短調の音階と調号」は、民間の音楽教室でのレッスンや、音楽系の部活動などの経験がある人でも難しいため、基本的な内容にとどめた(図7)。

P.65 長調、短調の音階と調号



図7 長調、短調の音階と調号

「さまざまな記号」では、クレシェンド、リタルダンド、ア・テンポ、スタッカート、スタッカーティッシモ、テヌート、テヌートスタッカート、前打音、トリル、弱起について、実際の楽曲を演奏しながら解説した(図8)。

P.68 さまざまな記号



図8 さまざまな記号

「伴奏の実際」では、楽譜を見ただけでは音楽(音)が想起できない人のために、実演を交えて解説した(図9)。

P.101 伴奏の実際



図9 伴奏の実際

4. 2021 年度の授業

2021 年度は、前年度とは異なり、対面授業かオンライン授業かを選ぶことができたが、過去 3 年間の履修者数の平均が約 40 名、ピアノを設置している教室の収容定員も約 40 名だったため、感染症対策により履修者間にスペースを確保するとすると、対面授業は困難であった。また、ピアノが設置されていない大教室使用では対面の利点がありませんいたため、オンライン授業を選択することにした。

前年度からの変更点としては、〔双方向オンライン授業での教師による説明+小テスト+教師による自撮りピアノ演奏及び説明動画配信〕が、〔双方向オンライン授業での教師による説明+小テスト+授業補助音声・動画+プラスα動画配信〕になったことである。履修者 42 名のうち、オンライン授業に参加できない履修者に対しては、毎回 Zoom を画面録画し、オンデマンド動画として配信した。

プラスαの動画のうち、筆者が作成したものは前年度につくった自撮り動画である（表 2、図 10、図 11）。YouTube 動画は表 3 に示すとおりである。

履修者には毎回、コースニュースで教材や課題を示した（図 12）。

表 2 2021 年度 プラスα動画①

項目	時間	URL	使用機材など
音階と長音階	11' 11"	https://youtu.be/mjUH0s5oLcA	iPad GarageBand
短音階	5' 48"	https://youtu.be/IDrS_OoVsBc	iPad GarageBand



図10 音階と長音階の説明動画 QRコード



図11 短音階の説明動画 QRコード

表3 2021年度 プラスα動画②

名称	URL	備考
すぐ分かる音楽理論 #13『耳コピーや曲解析に役立つ三和音ダイアトニックコードの基本』	https://youtu.be/5XM1GLYv0v0	RICKEY GUITAR CHANNEL ギター学習者向き
すぐ分かる音楽理論 #14『お洒落な曲によく使われる四和音ダイアトニックコードの基本』	https://youtu.be/k0cJdZmX2Hw	RICKEY GUITAR CHANNEL ギター学習者向き
この曲何調？簡単にわかる方法①「#のついた長調（メジャー）」	https://youtu.be/99ySWISN-hY	大人のピアノ倶楽部 ピアノ学習者向き
この曲何調？？？がわかる方法②「bのついた長調（メジャー）」	https://youtu.be/L39o50CIR3U	大人のピアノ倶楽部 ピアノ学習者向き

5/18の授業動画、課題など
2021-05-24 12:20

投稿者 深見 友紀子

5/18の授業動画

<https://youtu.be/Lh0MLiYuu98>

5/18の課題は、

小テスト 音名 Step6～10までをまだやっていない人はやる。

先週の授業内容の理解が不十分な人は、5/11の動画「音階と長音階の説明動画」をもう一度視聴する。

<https://youtu.be/mjUH0s5oLcA>

小テスト 音階と調 Step5まで

コースコンテンツ 授業補足動画 以下を視聴する。

p.59 長音階と短音階(2分5秒)
 p.64 長調と木短調(1分19秒)
 p.65 長調、短調の音階と調号(1分41秒 1分43秒)

「短音階」の説明動画(p.59) イ短調について (6分46秒 神戸女子大学教授 小林田鶴子先生)

<https://youtu.be/QZV1xn9HnQI>

「短音階の説明動画」#系の短音階 b系の短音階(a, bそれぞれ4つまで)も視聴する。

https://youtu.be/lDrS_OoVsBc(5分46秒)

5/11の宿題、リズム打ちについては、個別にレスポンスします。

最終更新 深見 友紀子 2021-06-22 16:00

編集
閲覧確認

図 12 manaba コースニュース

5. 履修者へのアンケート

5.1 アンケート結果

2021年度の履修者に対して、アンケート調査を実施した（履修者42名中、回答者24名）。質問と回答を以下に示す（図13～15、表4～6）。

・小テストについて、問題量は適当ですか？

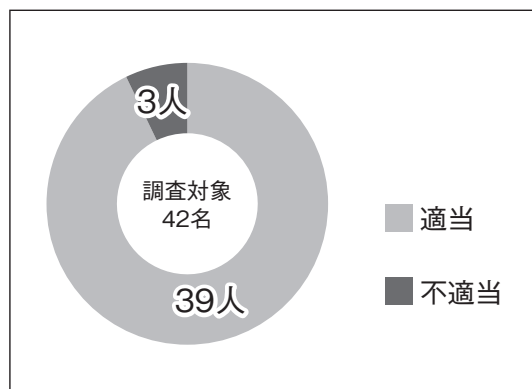


図13 小テストの問題量

・小テストについて、コメントがあれば書いてください。

	コメント
適 当	何回もテストを受けることができたので理解するまでできてとてもよかったです。
	多すぎず、少なすぎず、ちょうど良かったです。
	沢山の問題があるのはよく勉強になりました。しかし、1つに対する問題は多いのでそれをいくつもやるよりも1つのテストに様々な問題を入れてほしかったです。
不 適 当	苦手な問題だと時間がかかる。
	音楽の楽譜を読むことに苦手意識をすごく持っているので、少し多いと感じます。
	多いです。

表4 小テストに対するコメント

・授業補足音声・動画は役に立ちましたか？

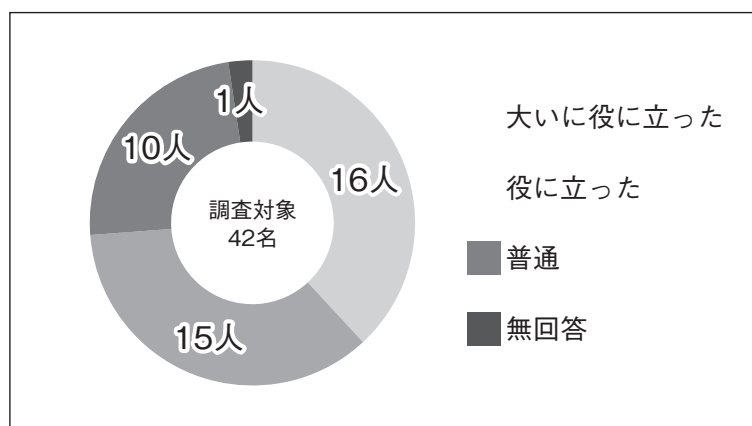


図14 授業補足音声・動画は有益か

・授業補足音声・動画に対するコメントを書いてください。

	コメント
大いに役に立った	ピアノと一緒に解説したり、細かく解説して下さったので、Zoomの授業に加えてとても理解が深まりました。
	小学生だったころにピアノを習っていましたが、何年も前の話なので忘れていたことが多かったのですが、講義と合わせて見て、忘れていたことや初めてやったことに対して対応ができたこと。
	授業を受けたうえでもう1度同じ内容を詳しく受けれるから理解度が高まると思いました。先生がピアノを弾いてくれるからわかりやすかった。
	教科書を個人的に買ったのですが、教科書を順々に丁寧に沿っているため、わかりやすかったです。しかし、ピアノを習ったことない人や、初めて触れる人には少しベース配分が早いかなと思いました。
	授業中の説明に加えてピアノで演奏しているので、実際に音を確認しながら勉強することができました。
	わからないところを実際に映像で観れて役に立ちました。
	丁寧な解説で、実際に音を出していたので、わかりやすかったです。
	実際に音を聞いたところ。
	実際にピアノを使っの解説でより理解が深まった。
	教科書の復習の際、分からないところがあった時に補足動画を見ていましたが、とても分かりやすく、理解できました。
	繰り返し視聴可能。
	教科書だけ見ても理解しきれなかったところをカバーすることができたため。感覚的に理解することができた。
	この授業補足動画の有無で理解度がまるで違った。すごく良かった。
	自分は少しピアノをやっていたのですが、音符さえ読めてしまえば少しくらい記号の意味が分からなくても弾くことができちゃいます。なので正確な符号の意味や調の仕組みを理解することができて勉強になりました。また、文だけでなく言葉がついている方がわかりやすいと感じました。
実際にテキストを読んだりするだけだと、なかなか全部理解するのが難しかったので、授業補足動画はとても役立ちました。特に、私は調の部分が一番苦戦していたのでとても参考になりました。テキストだけだと分からない部分が補えたという点において、継続してみるのも良いのではないかと率直に思いました。	
説明がわかりやすいところ。	

役に立った	<p>教科書だけでは分からなかった部分があったのだが、授業補足動画を見たことで理解することが出来たから。</p> <p>わかりにくい点の補足がしてあった。</p> <p>授業を振り返る時にみると分かりやすかった。</p> <p>実際にピアノを弾いて説明してくれているので、人生でピアノに触れてこなかった身としては楽譜がスラスラ読めないのがありがたかったです。</p> <p>実際に音を聞けたり、手元を見ることによって、頭で理解しきれなかったことが理解出来たので、動画があっただけでほんとに良かったです。</p> <p>教科書の内容を具体的にピアノなどでやってくださった部分が、よりわかりやすくなって理解が早かったです。</p> <p>音程やコード等の説明を再度しっかりしてもらえたことがよかった。</p> <p>短い動画で復習や確認ができたので良かった。理解が深まった。</p> <p>授業中楽譜しか勉強できないので、補足動画を通じて、うまく楽譜の内容と耳が聞こえた音符を一緒に覚える。</p> <p>ただ教科書を見るだけでは理解しづらかった部分を説明してくれていたところ。</p> <p>教科書の文字列だけではよくわからなかったのですが、音声での解説が理解を手助けしてくれたからです。</p> <p>授業内で理解しきれなかったところを自分のペースで再確認することができた。</p> <p>わからないと思ったところがだいたい解説されているから。</p> <p>文章で理解しにくいものを具体的に説明してもらえるとありがたかった。</p> <p>補足動画が授業を補完する際に役に立った。</p>
普通	<p>1つのことに対しじっくり説明してくれたのでよかった。</p> <p>分からないところで調べることができました。</p> <p>動画を見ると、理解しやすい。</p> <p>やはり対面で色々聞きたかった。</p> <p>不十分な所もあった。</p>
無回答	<p>一人暮らしの家にピアノがないので、音を聞くことでより理解を深めることができた。</p>

表5 授業補足音声・動画に対するコメント

- ・コロナ禍が改善したと仮定して、来年度以降、ピアノのない大きな教室で対面授業がいいですか？ このままでいいですか？

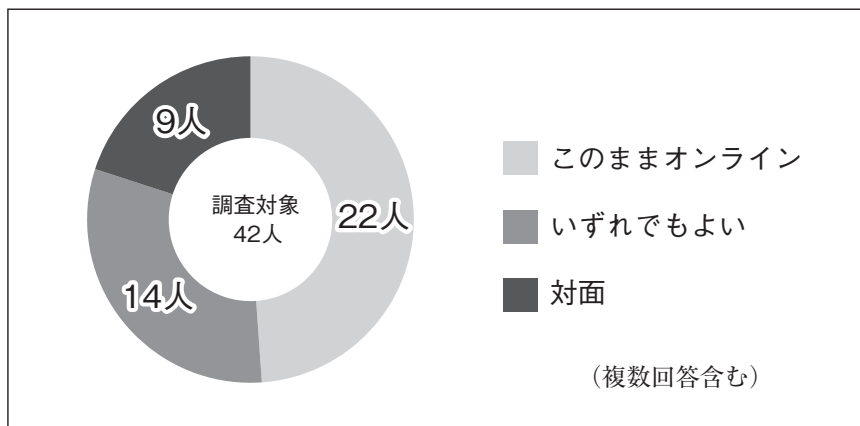


図 15 オンラインか、対面か

- ・オンライン、対面、いずれでもよいを選んだ理由を書いてください。

	理 由
このままオンライン (オンデマンド)	オンラインでの解説を聞いたり、小テストに取り組んだり、授業補足動画を見たりという授業だったが、不便だ(やりにくい)と感じたことがなかったから。
	オンライン型のほうが受けやすいため。
	小テストの時や復習していてわからない場面が出てきたとしても Youtube に授業動画があったり、補足動画があってそこで何度も確認ができ、理解を深めることができたから。
	対面よりオンラインのほうがじっくり考えられるから。
	オンラインでもしっかりと理解することができる授業だと感じたからです。
	ピアノがあったほうが私はわかりやすいと思っているので、ピアノがない教室で対面をやるのならオンラインで補足動画としてピアノを弾いてもらったほうがいい気がします。
	今のままでも十分にわかるから。
	オンラインで間に合うから。
	自分が授業に出られないときにオンデマンド動画を見ることができるので良いです。
	ピアノがないのであればあまり変わらないしオンラインでできたほうが便利です。テキストと先生のオンライン授業で十分に理解できたので大丈夫です。
まだ時期的に新型コロナウイルスの感染が怖いため。	

<p>このままオンライン (オンデマンド)</p>	<p>何度も復習ができるため私はオンラインが良いと思いました。</p> <p>補足動画で復習できているし、先生がZoomで質問に答えてくださっているのでピアノのない部屋でやるならあまり意味がないと考えたため。</p> <p>家にキーボードがあって、それを実際に触りながら授業を受けることで理解できていたので、ピアノのない大きな教室でやるのであれば家で受講できる方がいいです。</p> <p>分からない部分は何回も見直すことができるため、オンライン形式が良いと思います。半期の間ですがありがとうございました。</p> <p>設定された授業時間にとらわれず、自分の好きな時間に受講が出来るから。音楽に触れる機会が増えると思った。ピアノに触れる機会があればより学びが深まるかも知れないが、教科書と解説動画でも十分な知識は得られると思った。</p> <p>この授業を受ける人が多いという感じがある。Zoomでいいと思う。</p> <p>自分のペースで進められるから。</p> <p>ピアノを使うのであれば対面であってもよいと思うけど、使わないのであればオンラインでも十分理解することができるから。</p> <p>実際にピアノを交えながら授業ができないのであれば、このままオンラインの方がすぐに補足動画などの + a の物が見れるからよいです。</p> <p>個人的には部活があるのでオンデマンドがありがたく、後からでも見返せるのでわからない部分は何度も繰り返し見ることができたからです。</p> <p>ピアノのない教室で授業をするのは、インターネットで授業をするのと同じだし、コロナウイルスのためにはインターネットで授業をするほうが良いと思う。</p>
<p>いずれでもよい</p>	<p>Zoomの授業に加え、授業補足動画もあり、オンラインでとても理解が深まったので、どちらでも大丈夫だと思いました。</p> <p>オンラインだといつでも授業を受けられるし、対面だと授業補足動画を見なくてもその場で音を聴けるし、どちらにも良い点があるから。</p> <p>この内容でオンラインで問題なかったので大きな教室で対面でも大丈夫だと思ったから。</p> <p>オンラインのままなら自分の好きな時間に見ることができるので、焦らずにやる事が出来て良かったと思います。また、対面なら、分からないことはそのままにせず、先生に直接聞いたりできるので、勉強面では対面の方がいいのかなと思った。</p> <p>オンデマンドで問題はとくになかった。だが、対面のほうが集中はできると思う。</p> <p>対面は勉強の効率が上がるが、やっぱりウイルスが心配です。</p> <p>前期の授業ありがとうございました！</p> <p>今のままでも理解できるし、対面でやるとより理解できると思うから。</p>

<p>いずれでもよい</p>	<p>正直、私はオンライン型の授業はとても受けやすいように思いました。でも、対面だったらオンライン型よりもやりたいことがたくさん出来るのではないかと思います。感染の状況や受講人数にもよりますが、個人的にはどちらも良いと思っています。</p> <p>状況に応じて対面・オンラインどちらでも良いと思うため。</p> <p>オンラインでも十分に理解できました。オンラインの方が自分の好きなタイミングでも見れるし、見返すこともできるので利点が多いですが、もしオンライン授業内でもピアノで実際に音を出せる環境にあれば先生が演奏することで、より理解が深まる気がします。</p>
<p>対面</p>	<p>オンライン形式でも授業内容がとても分かりやすいですが、対面だと苦手な所が出てきた際に先生に気軽に聞きやすく、より深く理解できると思ったからです。</p> <p>対面の方が質問したりできるから。</p> <p>授業が終わったときに質問をしやすくなるから。</p> <p>対面でないとサボってしまうため、やはり対面で直接解説を聞いた方が自分の身に沁み込む。</p> <p>対面のほうが自分の苦手なところやわからない部分をその場で解決できると感じるからです。 オンラインは利便性に長けていると感じますが、理解が不十分になってしまうと置いてけぼりになってしまうと感じます。</p> <p>ピアノを持っていなかったのですが、アプリをインストールしたりもしましたが、調やコードなどはほとんど暗記科目で大変でした。音楽だからこそ、他の授業とは違う聴覚を使った授業の方が実感が湧くと思います。あと、先生のピアノが聞きやすかったです。</p> <p>対面が好きだから。</p> <p>わからないことをすぐに聞けない。</p>

表6 オンラインか、対面か

5.2 考察

5.2.1 小テストに関して

小テストは各項目、各 step につき 8~19 問あり、問題数としては多いが、42 名中 39 名が問題量は妥当と答えている。ただし、読譜が苦手な履修者は回答に時間がかかるため、多いと感じるようである。

項目別だけではなく、さまざまな項目が混ざった小テストもあったほうがよいという意見があった。次の機会に学期末試験のための模擬試験として作成したい。

5.2.2 授業補足音声・動画に関して

授業補足音声・動画に関しては、“大いに役に立った”が16名、“役に立った”が15名、“普通”が10名、“無回答”が1名だった。

「オンライン授業を受けた後でこの音声・動画で復習するとより理解できる」、「ピアノを弾きながら解説しているので、音で確認できてわかりやすい」、「テキストだけではなかなか理解ができないため、音声や動画での補足が有効である」、「自分のペースで繰り返し視聴できる点が良い」などの意見が大半であった。それぞれの音声・動画は短いものであったが(表1)、十分に伝わる内容であることが窺えた。しかし、「やはり対面で聴きたかった」、「不十分な所があった」と回答した履修者がそれぞれ1名ずついた。

5.2.3 オンライン授業か、対面授業か

2021年度は、ピアノを設置している教室の収容定員の関係で、オンライン授業をすることにしたが、来年度以降の授業について、オンライン(ハイブリッド)授業がよいか、対面授業がよいかを尋ねたところ、“オンライン授業がよい”が22名、“いずれでもよい”が14名、“対面授業がよい”が9名という結果になった。

“オンライン授業がよい”と回答した学生の意見は、「オンラインのほうが受けやすい」、「オンラインのほうがじっくり考えることができる」、「オンラインで十分理解できる」、「何回も見直すことができる」、「好きな時間に受講できる」などであった。〔双方向オンライン授業での教師による説明+小テスト+授業補助音声・動画+プラス α 動画配信〕という構成で、かつ双方向オンライン授業を画面録画してオンデマンド動画として配信するという方法は、有効であったといえよう。

一方、“対面授業がよい”と回答した学生の意見は、「わからない所があると教師に質問できる」、「対面でなければさぼってしまう」、「対面のほうがその場で疑問点を解決できる」、「音楽だからこそ、他の授業とは異なった聴覚を使った授業が望ましい」、「教師のピアノを聴きたい」などであった。

双方向オンライン授業でも、説明が終わった後に質問の時間を設けていたのだが、なかなかオンライン上で質問するのは難しいのかもしれないので、多人数のオンライン授業であっても、気軽に質問ができる工夫が必要である。また、双方向オンライン授業でピアノを弾くには、話声とピアノ音を別々のマイクで撮り、手を自由に使えるようにするためにヘッドセットマイクが不可欠になる。そして、ピアノを演奏しつつ、画面共有なども行わなければならない、リモートレッスンよりも骨が折れることになる。やはりピアノ演奏を録画しておくほうが授業の質も担保できるのではないかと予想する。

6. おわりに

当初、manaba上の小テストを活用することで初年次教育の対面授業を充実させることを目指し

本研究は、コロナ禍によってオンライン授業の実施を余儀なくされた結果、小テストに授業補足音声・動画が加わり、「楽典（音楽基礎）のためのオンライン学習コース」の構築へとその目的が変わってきた。

コロナ禍でコンサートやライブに行く機会が減り、人々は YouTube など音楽を楽しむようになったが、音楽学習の場面においても、楽譜を購入する際に演奏動画を観て確認する、楽器の練習に YouTube を活用するといったように、動画視聴の比重は増す一方である。最近では、紙の教科書でも QR コードで参考動画などを視聴することが一般的になってきた。

このような状況を考えると、たとえコロナ禍が終息し、初年次科目『音楽概論』が対面授業に戻ったとしても、2019 年度以前の対面授業に戻ることはないだろう。オンラインと対面とはどのような割合になるのか。オンラインで学んだことを対面で深めるのか、対面で学んだことをオンラインで深めるのか。長年、オンラインの活用について研究してきた筆者には、今後生じるであろう変化が今から楽しみである。

謝辞

本研究は、2019 年度、2020 年度大東文化大学全学プロジェクトに採択され、その支援を受けた。2019 年度に実施した内容は、「学習管理システムにおける音楽基礎（楽典）小テストの開発」（『大東文化大学紀要』第 59 号 p.53～63 2021 年 2 月）に記載した。2020 年度～2021 年度前期に実施した内容は本稿にまとめた。

参考 URL

- ・すぐ分かる音楽理論 #13 『耳コピーや曲解析に役立つ三和音ダイアトニックコードの基本』
<https://youtu.be/5XM1GLYv0v0>（参照日 2021.09.05）
- ・すぐ分かる音楽理論 #14 『お洒落な曲によく使われる四和音ダイアトニックコードの基本』
<https://youtu.be/k0cJdZmX2Hw>（参照日 2021.09.05）
- ・この曲何調？簡単にわかる方法① 「# のついた長調（メジャー）」
<https://youtu.be/99ySWISN-hY>（参照日 2021.09.05）
- ・この曲何調？？がわかる方法② 「b のついた長調（メジャー）」
<https://youtu.be/L39o50ClR3U>（参照日 2021.09.05）